

夏期における濃緑色葉ネギの積極的灌水栽培のポイント

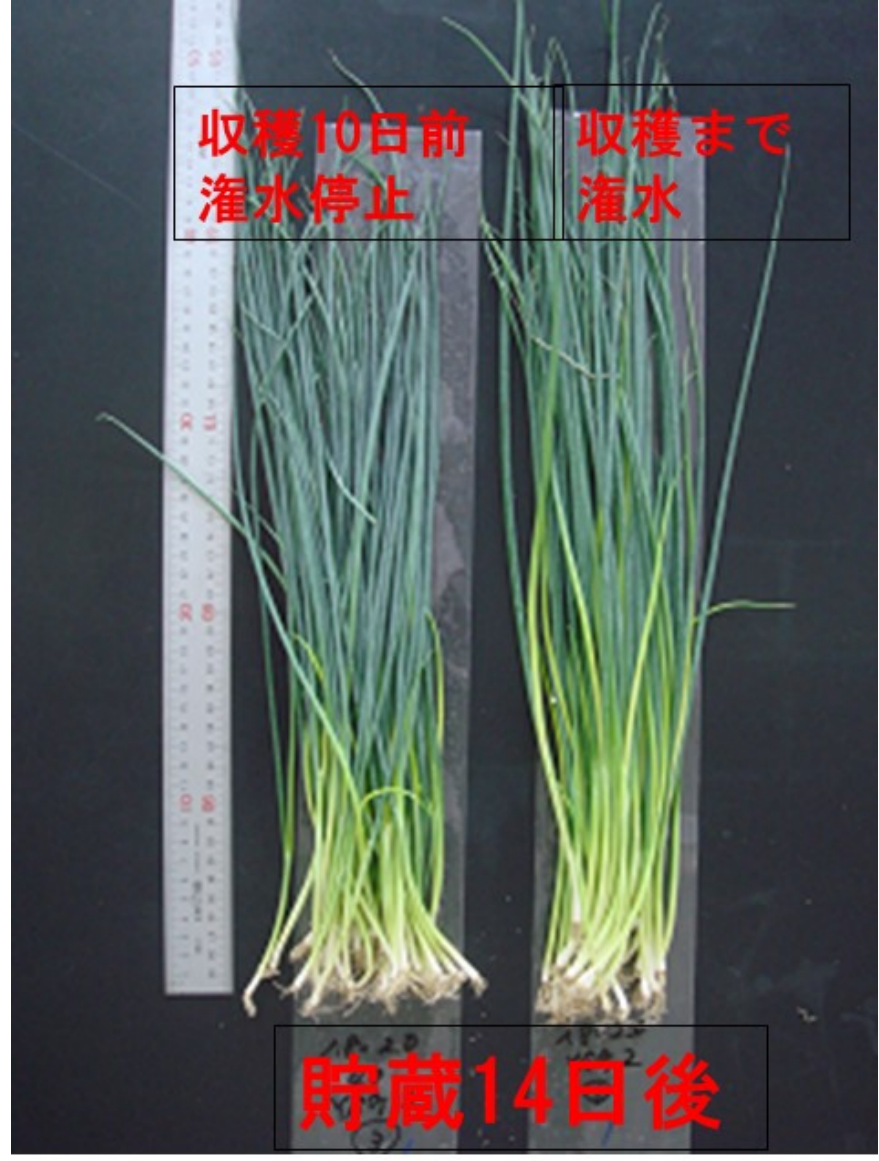
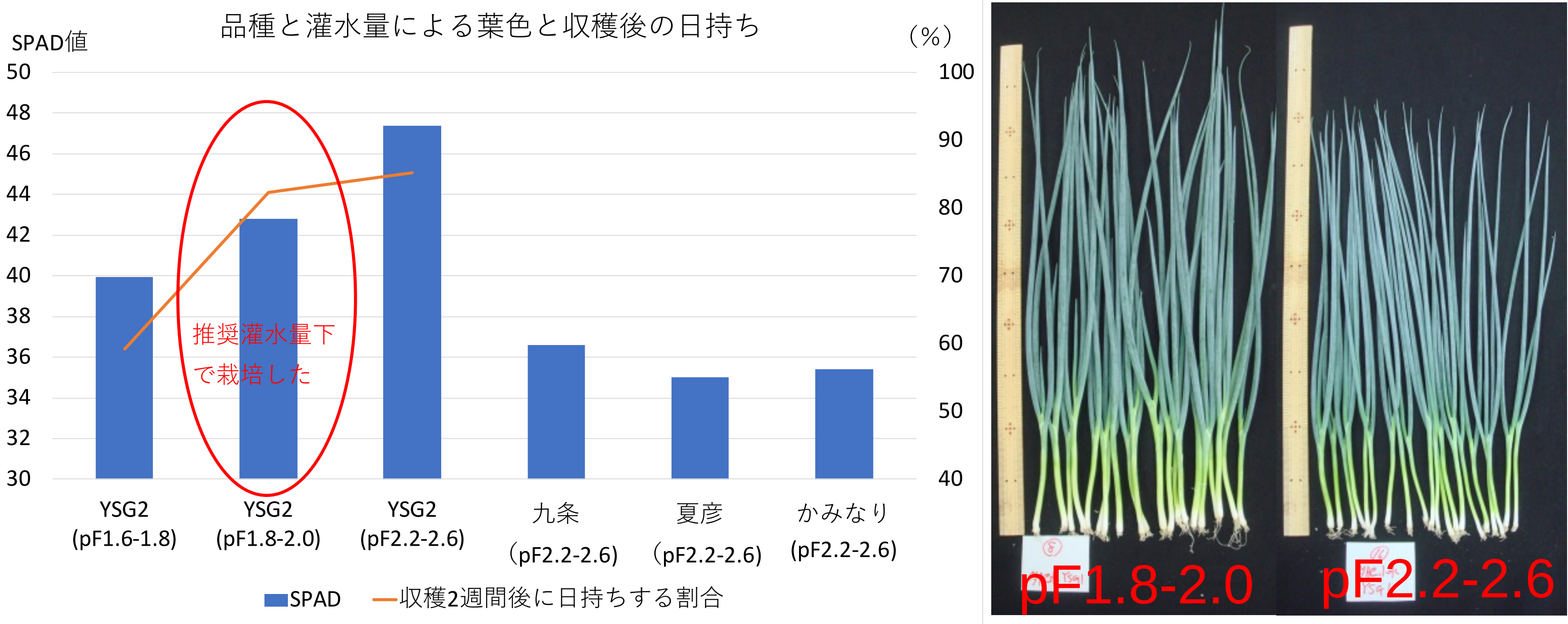
山口県農林総合技術センター、
農研機構 野菜花き研究部門

盛夏期の葉ネギ栽培は葉色を濃くするため、灌水を控え、多肥栽培を行います。しかし、そのため葉先枯れ等による減収を招きやすくなります。そこで山口県育成濃緑色品種を活用することで、肥料を抑えた条件と一定の多灌水栽培方法により、葉色は濃く、葉先枯れ等による減収も軽減できます。

1 盛夏期に栽培する品種は？

- 山口県オリジナル濃緑色品種 YSG系品種

2 濃緑色品種と多灌水の効果は？



- 濃緑色品種:山口県育成YSG2
- 多灌水量はpF1.8-2.0
- 収穫10日前から仕上げ(灌水制限)
 - ➡葉色は一般品種より濃緑
 - ➡生育は早い
 - ➡収穫後の棚持ち優

3 施肥量はどのくらい？

施肥量の違いによるYSG2号の収量差 (P<0.05)

試験区 ^z	草丈 (cm)	収穫株率 ^y (%)	収量 (kg/m ²)	窒素吸収量 (kg/a)	葉色 (SPAD)	葉先枯れ 発生 ^x (%)
1/4施肥区	45.1 b ^u	54.8 ab	2.8 b	1.2 b	36.5 b	8.3 a
1/2施肥区	48.9 a	57.4 a	3.3 a	1.6 a	36.8 b	8.3 a
標準施肥区	46.8 b	48.3 b	2.9 b	1.5 a	39.3 a	6.0 a

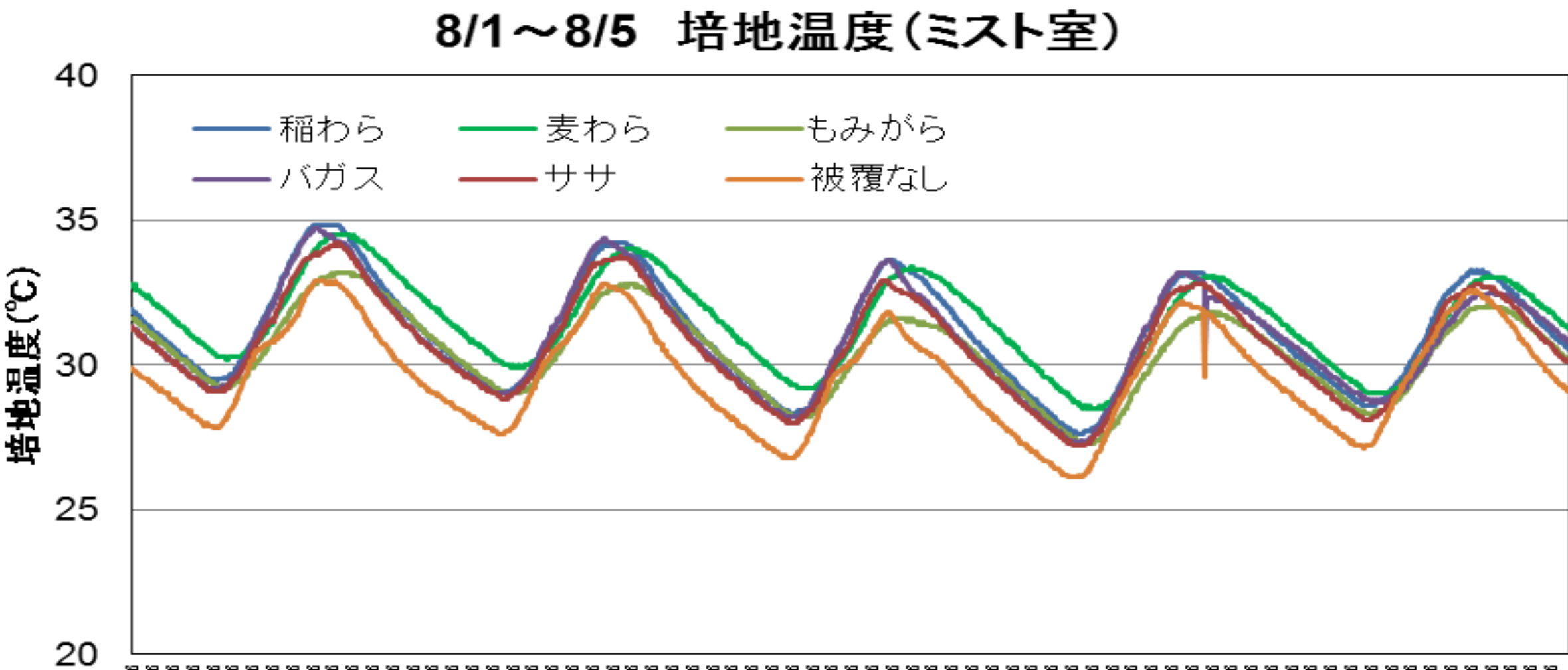
^z 1/4施肥 (基0.25・追0.25)、1/2施肥 (0.5・0.5)、標準施肥 (1.5・0.5)



- 最適施肥は標準 (N 2.0kg/a) の1/2量
 - ➡葉色は標準と同等
 - ➡葉先枯れ少ない
 - ➡収量性は最大
- * 葉ネギに必要な施肥量
 - ➡N=1.0kg/a



4 高温時の土壌表面の被覆資材は何？



- 培地温の上昇を最も抑制する資材
 - ➡もみがら、被覆なし
- 夜間の培地温が最も低下する資材
 - ➡被覆なし
- 資材による生育量や障害の差は無し
 - * 被覆資材は「無し」もしくは「もみがら」がよい

●普及・社会実装への道筋

- 葉ネギの新しい栽培技術は、同気候変動プロで開発中の耐暑性に優れる濃緑色葉ネギ品種とセットでの普及となります。

栽培技術+育成品種

- 気温上昇による減収回避
- 夏期の葉ネギ生産が容易
- 新規就農者の参入が容易
- 産地拡大・生産振興に寄与